

第5学年 学級活動指導案

平成28年10月20日（木）第5校時

1 議題 「学級文庫の使い方を考えよう」（第5学年 ア 学級や学校における諸問題の解決）

2 児童の実態と議題選定の理由

本学級の児童は、好奇心が強く何事にも意欲的に取り組むことができる児童が多い。特に、国語の学習の古文や、家庭科の裁縫など新しい学習には積極的に取り組む姿が多く見られる。また、発展的な学習にも興味をもって取り組むことができるが、あきらめが早い側面も見られる。生活面では、年度当初から男女の隔てが少なく、レク係を中心に全員で遊んだり、協力して清掃や当番活動に取り組んだりしてきた。総合的な学習の時間の取組では、特別支援学校の児童との交流を通し、相手の立場に立って考えることができる児童が増えてきた。全体的にトラブルは少ないが、自分の気持ちを上手く言葉にできず、心ない言葉を言ったり、冷たい態度をとってしまったりするなど友達との関わり方に支援を要する児童もいる。そのような中で、4月から計画的に学級会を開き、自分たちでよりよい学級生活をつくる活動に取り組んできた。これまでの話合いや集会活動の中で、集団活動の楽しさや友達と協力することの大切さを実感している。「クラスのキャラクターづくり」や「思い出すごろく作り」を通して、クラスへの所属意識が高まってきている。

学級活動では、年度当初にオリエンテーションを行い、会議の進め方、望ましい議題などを学級全体で確かめ合い、共通理解を図った。その後、「進級お祝いパーティーの計画を立てよう」「クラスのマーク作りの計画を立てよう」「1学期をふり返るすごろく大会の計画を立てよう」などの議題で学級会を開き、実践を積み重ねてきた。その際に、望ましい発言を価値づけ話型として掲示を増やすなどして、意見の出し方や発言の仕方について理解を深めてきた。そうすることで、友達の意見を受けて発言したり、他者を説得したり、司会を助けようとする発言が増えてきた。しかし、イメージの共有が不十分であるが故に、議論が拡散し時間内に意見がまとまらないなどの課題も見られる。

本議題は、「学級文庫が乱雑でどんな本があるかわかりにくく、借りるのが大変だからどうにかしたい」という思いから提案されたものである。読書の秋という言葉もあるように季節感をもつ議題であるということ、学級文庫が乱雑でどうにかしたいという課題を解決したいという理由から計画委員会で話し合い、本議題が選定された。なお、過去の実践の振り返りからは、「活動したことによって友達のよさが分かった」や「自分のことを知ってもらえて（みんなのために行動できて）うれしい。次も頑張りたい」といった感想がみられる。そこで、児童にとって課題意識が強い議題を児童とともに設定することで、学級会に向けた意欲の向上に繋げていきたい。

3 研究主題との関わり

互いのよさを認め、よりよい人間関係を築き、学級・学校生活を創造する児童の育成～学級活動（1）の充実を通して～

本学級では、児童が互いのよさを認め合える学級づくりのために、学級活動（1）話し合い活動の充実を目指してきた。児童の中には「本気で取り組み、楽しい学級にしたい」という共通の思いがある。その思いを実現するために、考えを出し合い、比べ合うことは互いのよさを認めることにつながると考える。また、話し合いの中で、友だちの考えを受けて、自分の意見を述べたり、自分の意見を変えたりすることは互いのよさを認め合う上で欠かせないと考える。さらに、集会に向けた準備等に協力して取り組むことで、よりよい人間関係を築くことができると考える。このように、話し合い、実践を着実に繰り返すことで、自ら学級生活をよりよいものにしていこうとする児童が育つのではないかと考える。

4 評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上にかかわる問題に関心を持ち、他の児童と協力して自主的に集団活動に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの意義や、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の効率的な進め方などについて理解している。

5 事前の活動

月日 (曜日)	活動 の場	活動の 主体	活動の内容	・指導上の留意点◎目指す児童の姿(評価の観点) [評価方法]
10月 13日 (木)	昼休 み	計画委員 提案者	・提案ポストの提案をもとに議題案を確認し、選定する。 (議題ポストに提案されていた議題) ①「学級文庫を使いやすくしたい」 ②「係発表会をしたい」 ③「読書集会をしたい」	・議題選定の視点、提案理由の意義を理解して選定できるように助言する。
10月 13日 (木)	帰り の会	全員	・議題の決定	・計画委員の提案のもと全員で議題を決定する。 ・提案された議題のよさと必要性を称賛する。
10月 17日 (月)	昼休 み	計画委員 提案者	・活動計画の作成をする。 ・学級会の進行の仕方を確認する。 ・提案理由の練り上げをする。 ・話し合いの柱を決定する。 ・決まっていることを確認する。 ・上記事項等を背面黒板に記入する。	・提案理由の練り上げのポイントを示し、提案者の思いを深められるようにする。 ◎計画委員会の役割、会の進行の仕方を理解している。 (知識・理解) [観察]
10月 18日 (火)	帰り の会	全員	・話し合いの柱等を伝える。 ・学級会ノートの記入をする。	◎提案理由に沿った意見の出し方を理解している。 (知識・理解) [ノート]
10月 19日 (水)	昼休 み	計画委員	・学級会ノートに書かれた意見を整理し、短冊に記入する。 ・話し合いの進め方を確認する。	・出された意見から話し合いの見通しがもてるよう助言する。

6 本時のねらい

- 読書に対する課題を理解し、みんなが読書好きになれるような学級文庫の使い方を考えることができる。

7 展開

第10回 学級会 計画ノート 10月20日(木) 5時間目

議題	学級文庫の使い方を考えよう。		
提案理由	進級し、学級文庫の本が新しくなった一学期には雨の日や昼休みなどに本を読んでいる人がたくさんいました。しかし、最近では本を読む人と読まない人がはっきりと分かれ、多くの方が読書タイムでしか本を読んでいません。それに、読書タイムの後には学級文庫がばらばらです。これでは、どんな本があるかわかりにくく、本を読む人がもっと減ってしまうと思います。そこで、学級文庫の使い方を考えたいと思います。そうすれば、本が選びやすくなり、多くの方が本を読むようになると思います。		
提案者	に、読書タイムの後には学級文庫がばらばらです。これでは、どんな本があるかわかりにくく、本を読む人がもっと減ってしまうと思います。そこで、学級文庫の使い方を考えたいと思います。そうすれば、本が選びやすくなり、多くの方が本を読むようになると思います。		
話合いのめあて	選びやすく多くの方が読んでくれるような学級文庫の使い方を考えよう。		
計画委員	司会	黒板	黒板
	司会	ノート記録	
決まっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを2つ決める。 ・工夫をするために使える時間は1時間(10月26日(水)の6時間目) 		
話合いの進行	気をつけること		
1 始めの言葉	大きな声ではっきりと言う。(司会)		
2 計画委員の紹介	一人ずつ、自分の役割を発表する。 今日の目標も合わせて発表する。		
3 クラスの歌	クラスの歌「ハッピーキングサンソング」を元気に歌う。		
4 議題の確認	大きな声ではっきりとみんなに聞こえるように言う。(司会)		
5 提案理由の発表	提案理由を理解してもらえるように、ゆっくりと説明する。 (提案者) みんなが提案者の方を向くように言う。(司会)		
6 決まっていることの確認	決まっていることをはっきりと言う。(司会)		
7 話合い 話し合うこと ①「学級文庫をきれいに 使うためのルールを を考えよう」 (10分) ②「学級文庫を使いやす くするための工夫を 考えよう」 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ・出された意見を事前に短冊に書いておき、黒板に貼っておく。 ・出された意見を整理しておく。 ・意見を「比べ合う」段階から、話し合うようにする。 ・出されている意見に質問がある場合は答えてもらう。 ・ルールは2つまでにする ・提案理由をもとによりよい考えにしばっていく。 ・まとめるときは、「決定していいですか。」「反対の人はいますか。」と確認する。 ・実際に実行できるかどうかもある。 ・みんなができるだけ発表できるようにする ・役割分担については後日行う。 		用意するもの 提案理由 議題 短冊 マグネット 時計 司会などの名札 学級会ノート 名簿 ストップウォッチ

8 決まったことの確認	分かりやすくまとめて発表する。(ノート記録)
9 振り返り(記入/発表)	時間があったら、二人ほど発表してもらおう。
10 先生の話	先生にお願いをする。
11 終わりの言葉	司会が元気な声で言う。

8 指導上の留意点

話し合いの順序	指導上の留意点 ◎目指す児童の姿(評価の観点)〔評価方法〕
1 始めの言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・指導上の留意点 ◎目指す児童の姿(評価の観点)〔評価方法〕 ・明るい雰囲気で行えるように、笑顔で見守る。 ・事前に、司会・黒板記録・ノート記録それぞれで、めあてを言えるよう指示をしておく。 ・学級会への意欲が高めるために、元気よく歌えるようにする。 ・提案者の思いや願いが伝わるよう、事前に学級会ノートに記入し配付したり、背面黒板に記入したりして、学級全体に周知しておく。 ・全員が共通理解できるように、司会が大きな声ではっきりと発表できるよう助言しておく。 ・「比べ合う」段階から進められるように準備するよう伝えておく。
2 計画委員の紹介	
3 クラスの歌	
4 議題の確認	
5 提案理由の発表	
6 決まっていることの確認	
7 話し合い	
①学級文庫をきれいに使うためのルールを考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・出しておいた意見に追加や質問があるか確認するよう助言しておく。 ・出しておいた意見を短冊に要約してまとめておき、黒板に貼っておくことを確認しておく。 ・質問されても伝えやすく答えられるように準備するよう助言しておく。
②学級文庫を使いやすくするための工夫を考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・司会が困っている時や、話の方向がそれた場合は、積極的に助言し、話し合いの進め方や司会の進め方を共通理解できるようにする。 ・提案理由を意識した発言や建設的な意見、進行を助ける意見を称賛する。 ・発表者が偏らず、より多くの児童が発表して話し合いに参加できるように、司会に助言をする。 ・話し合いが逸れた場合には、提案理由や決まっていることに戻るよう助言する。 ・話し合いの収束の仕方が定着していないという実態をふまえ、決定に際しては、安易に多数決にならないよう注意するとともに、採用されなかった意見を出した児童にも確認するよう助言する。(反対意見がないか、忘れずに確認するよう事前に伝えておく。) ・決まらなかった意見をどうするかも考えられるよう助言する。 <p>◎学級文庫の使い方について、自分の考えを意欲的に発表しようとしている。 (関心・意欲・態度)〔観察〕</p> <p>◎友達の意見を参考に新たな意見や折衷案などを提案していたり、相手を説得する意見を出していたりする。 (思考・判断・実践)〔観察〕</p>

10 決まったことの確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート記録に、大きな声で発表できるよう指導しておく。 ・自己評価では、前回と比べて成長した点を発言回数ではなく、発言内容でみるよう助言する。 ・計画委員へのねぎらい、前回からの成長した点、次回への課題を伝えるとともに、実践への期待が高まるような声かけをする。 ・今後の活動に向けての見通しを確認するよう事前に助言しておく。
11 振り返り	
12 先生の話	
13 終わりの言葉	

9 事後の活動

日 時	児童の活動	○指導上の留意点 ◎目指す児童の姿（評価の観点）〔評価方法〕
10月21日（金） 学級タイム	役割分担	○これまでの係活動や集会等の準備を想起させ、協力して準備ができるよう助言する。
10月26日（水） 6時間目	役割ごとの準備	○意欲的に活動している児童や、協力して活動している児童、工夫して活動している児童を称賛する。
10月26日（水） 帰りの会	活動の振り返り	○提案理由にもとづいた活動の振り返りを行い、互いのよさや頑張りに気付くことができるようにする。 ◎集会のめあてを意識し、友達と協力して実践しようとしている。 (関心・意欲・態度)〔観察・振り返りカード〕